令和５年度　兵庫県立芦屋高等学校　学校評価　【自己評価・教員アンケート】

基本方針	基本的方向	芦屋高校の実践目標	取　組	質問事項	評価（５点満点）			成果と課題
					教員	生徒	保護者	
「生きる力」を育む教育の推進	「確かな学力」の育成	ア 知識・技能の定着 イ 思考力・判断力の鍛錬 ウ 表現力発信力の強化 エ 学びに向き合う姿勢の確立 オ キャリア教育の充実 カ「学び方」を学ぶ	教材の精選と指導の改善	生徒にわかりやすい授業をおこなうための工夫をおこない、適切な内容と量の課題を与え、学力を伸ばすことができた。	3.7	3.6	3.6	【今年度の成果】 ・単位制の魅力を再発見するため、教育課程の刷新を進めている。 ・生徒の「好き」をかなえる選択科目の設置を進めている。 【今後の課題】 ・「指導と評価の一体化」を踏まえ、観点別評価については研究を継続する必要がある。 【学校関係者評価】 ・シラバス等を用いての生徒支援に力を入れていることは大変良かった。 ・評価については、丁寧な取組がなされていると捉えている。
			個々のニーズに合わせた支援の実施	「シラバス」等を活用し、生徒が将来への見通しをもって科目選択ができるよう支援することができた。	3.6	3.7	3.7	
			補習、小論文講座、面接指導の充実	生徒が自分の進路について考えを深め、進路実現を果たせるよう適切な支援・指導ができた。	3.8	3.8	3.6	
			「好き」を叶える ユニークな選択科目	「単位制」の特色を活かし、生徒の能力・適性、進路希望等に応じた選択科目の設置や教育課程を組むことができた。	3.5	4.1	3.8	
			観点別評価の実践	「指導と評価の一体化」について考察を深め、授業のねらいや評価基準などを明確に示し、適切な評価をおこなうことができた。	3.1	3.5	3.5	
	「豊かな心」の育成	ア「自治 自由 創造」の実践	自治会組織の継承と発展	生徒が主体的に「自治」を行い、「自由」について考え「創造」できるよう、様々な教育活動の場面で生徒の支援にあたることができ	3.6	4.1	3.9	【今年度の成果】 ・生徒一人一人が当事者として学校づくりに参加するジチカツミーティングを多く実施。その結果、行事に関する満足度が高まったと思われる。 ・記念祭では生徒発案の「キャッシュレス決裁システム」を導入。 ・教育相談体制を整え、概ね支援することができた。 ・芦高タイムで探究学習に主体的に取り組むことができた。 ・国際理解教育への取り組みは充実していると評価できる。 【今後の課題】 ・いじめアンケートの実施時期や方法について改善が求められる。 ・多くの教員で探究を担当することで、教員全体での情報共有が進み、生徒が自ら考え学ぶ力を育むことがより一層期待できる。 【学校関係者評価】 ・教員と生徒保護者評価のギャップに関しては教員間、教師生徒間の温度差が反映されており、大きな課題と言える。 ・取り組んでいる内容について、保護者も参加できる機会を設けるなど、一層周知する必要がある。 ・地域に根ざした学校として、今後一層のふるさと意識の醸成が求められる。
			ルールやモラルを守る 倫理観の育成	あいさつ・時間厳守・言葉遣い・服装など基本的な生活習慣を確立できるよう、適切な指導ができた。	3.1	3.8	4.0	
			生徒主体の 記念祭（文化祭） 定期戦 体育祭	記念祭や体育祭、定期戦などの行事において、自治会を中心とした生徒主体の実施に向けて、支援することができた。	4.0	4.6	4.4	
		イ 探究活動の研究	芦高タイム （総合的な探究の時間）	「AUSS探求ナビ」や「芦高タイム」を通じて、生徒が自ら学び考える力を育み、学問・社会への関心を高める支援ができた。	3.6	3.9	3.8	
		ウ 心・技・体の醸成	部活動の活性化	生徒の自主的な活動を尊重した部活動の運営、実施ができた。	3.8	4.1	4.0	
		エ いじめ・不登校への対応	いじめ防止基本方針 いじめ対応チーム	生徒の心のケア、いじめの悩み等に対応できるよう教育相談体制を整えて支援にあたることができた。	4.0	4.2	3.9	
		オ 国際理解を深める教育	外国人生徒の受入れ	外国人特別枠選抜入学生に対して適切な学習支援を行い、進路実現に向けたサポートをすることができた。	4.0	3.7	3.3	
			海外語学研修の実施 台湾姉妹校との交流	海外語学研修の実施および台湾姉妹校との交流など、自国以外の人々と交流し視野を広げるための教育活動ができた。	4.0	3.7	3.1	
	「健やかな体」の育成	ア 健康安全教育 合理的配慮	個別の支援計画 指導計画の確立	生徒が健康意識を高く持ち、安全に学校生活を送るための取組をおこなうことができた。	4.0	4.3	4.2	【今年度の成果】 ・特別支援教育推進委員会での情報共有が進み、個別の支援計画を適切に立て、合理的配慮を行うことができた。 ・校内美化や衛生環境・生徒の自己健康管理について改善されている。 ・防災訓練を年2回実施し、水平避難訓練を行い、防災意識を高めた。 【今後の課題】 ・校内清掃にはさらに力を入れて美化に努める必要がある。 【学校関係者評価】 ・避難訓練に地域住民も参加している。安心、安全な町づくりのため連携できている。
		イ 誰もが居心地のよい学校	健康的な生活環境の維持	教室や廊下など、学校の敷地内は整理整頓され、清掃はよく行われている。	3.1	3.5	3.6	
		ウ 命を尊重する姿勢	避難訓練、防災教育	災害発生時の集団下校体制の改善や地域と連携した防災教育の計画・実践を進め、避難訓練などの取組がよくなされている。	3.9	4.0	3.8	
子どもたちの学びを支える環境の充実	教職員の資質・能力の向上	ア ICT機器の活用 イ 指導と評価の一体化	リモート授業の 研究、推進	ICTを活用するなど、個別最適な学びや協働的な学習をめざした工夫をおこない、生徒の主体性や論理的思考力を育む授業ができた。	3.6	3.7	3.3	【今年度の成果】 ・ICT機器の活用については、プロジェクターを用いた授業やGoogleクラスルームでの課題の配信など、かなり浸透した。 ・ミマモルメの活用は出欠管理における保護者とのコミュニケーションに有効であった。 ・年次通信、保健便り、カウンセリング便り、図書館だよりを定期的に発行し、生徒・保護者に必要に応じた情報やメッセージを発信できた。 ・オープンハイスクールの年２回実施、さらに記念祭での中学生招待、秋の「芦高ｳｪﾙｶﾑｳｨｰｸ」など新しい試みで学校PRを充実させた。 【今後の課題】 ・BYODについては、今後もさらなる活用が期待される。 ・探究活動において「芦屋から社会を考える」テーマに沿って、外部との連携を一層進める必要がある。 【学校関係者評価】 ・探究活動はじめ、学校行事を含め教育活動全般において、地域への情報発信を積極的に行い、地域との関わりをさらに深める必要がある。
			ICT教育においての資質 指導力の向上	情報発信に伴う責任など、情報モラルの向上は図られており、情報リテラシーについて十分に指導できている。	3.5	3.7	3.7	
			公開授業週間、 研究授業の実施 授業改善の取組	公開授業や研究授業などを実施し、相互に授業見学をおこない教科横断的に連携するなど自己研鑽につとめることができた。	3.2	3.7	2.8	
		ウ 地域への情報発信	年次通信等の発行 ミマモルメの活用 （メール配信）	学校ＨＰや年次・各課からの通信、ミマモルメ等の利用により、生徒・保護者等に必要に応じた情報やメッセージが発信できた。	4.0	4.0	3.8	
		エ 家庭との協働	保護者との連携	年次集会や面談などを通じて、保護者と連携した教育活動をおこなうことができた。	4.0	3.9	3.7	
		オ 情報共有と組織的対応力	生徒主体の オープンハイスクール	多くの生徒が活躍するなど、充実したオープンハイスクールを実施できた。	4.1	3.9	3.6	
			あしかび会(同窓会)、 PTA等との協働	記念祭や体育祭などの行事をはじめ、様々な教育活動においてPTAや同窓会と協力することができた。	4.0	4.1	3.9	
			図書館の活用	図書室を読書センター・学習センターとして活用した授業実践や放課後利用の促進等の働きかけができた。	3.1	3.6	3.1	
		カ 外部機関との連携	芦屋市、市内中学、 小学校との連携活動	様々な専門家や地域の方々など外部講師を積極的な活用や、様々な事業の実施を通じて開かれた学校づくりをおこなうことができた。	3.9	3.7	3.8	